

学習指導要領		スタンダード「基礎」
(1) 私たちの生きる社会	<p>現代社会における諸課題を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させるとともに、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる。</p>	<p>「幸福、正義、公正」などの考え方が、現代社会の諸課題を考察するための基盤であることを知る。例えば、生命・情報・環境の問題では、様々な対立点があることを理解する。</p>
(2) 現代社会と人間としての在り方生き方	<p>現代社会について、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解させるとともに、自己とのかかわりに着目して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察させる。</p> <p>ア 青年期と自己の形成 生涯における青年期の意義を理解させ、自己実現と職業生活、社会参加、伝統や文化に触れながら自己形成の課題を考察させ、現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期とは、社会とかがわり合う中で自己を形成し、心理的、社会的な自立を遂げていくなど、自己を確立する基礎を培う重要な時期であることを理解する。また、青年期の意義について、心理的離乳、第二の誕生、境界人、第二反抗期などの言葉を使って、説明できる。</li> <li>・青年期の課題として、自分らしい生き方・価値観を見付け、「自分とは何者であるか」を自覚するアイデンティティ（自我同一性）の確立があることを知る。また、自己実現につながる将来の職業生活について考察し、よりよく生きることの大切さを理解する。</li> <li>・青年期の自己形成を図る上で、社会とのかかわりが重要であることを知るとともに、社会参加が自己実現の可能性を高めることについて、具体的事例などを踏まえて理解する。</li> <li>・我が国の伝統や文化が、私たちの日常生活に様々な影響を与えていることを理解し、現代社会における伝統や文化の継承の重要性について知る。</li> </ul>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>「幸福、正義、公正」などの考え方が、現代社会の諸課題を考察するための基盤であることを理解する。例えば、生命・情報・環境の問題では、自己の幸福の追求が、時として他者や他の集団、あるいは社会全体の幸福と対立することがあることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期の意義について広く理解するとともに、青年期の心理を自己に当てはめて考察し、欲求不満や葛藤などにより心の安定が脅かされた場合、自我を無意識に守る働きがあるということを理解する。また、青年期の課題を発達段階と結び付けて説明できる。</li> <li>・青年期は自己の内面と現実社会の葛藤の中からアイデンティティを確立する時期であることを理解する。また、エリクソンによって定義されたアイデンティティの概念や、マズローの欲求階層説について、将来の自己実現と職業生活との関連を踏まえて説明できる。</li> <li>・誰もが多様な生き方・働き方を選択できる社会の形成について、自己の社会的役割を踏まえて考察できる。その際、男女が共同して社会に参画し、共に責任を負うことの重要性を理解する。</li> <li>・我が国の伝統や文化について知ることが、自己を形成する上で重要であることを理解し、伝統や文化と自己の行動様式との関係について考察できる。</li> </ul>	<p>「幸福、正義、公正」などの考え方が、現代社会の諸課題を考察するための基盤であることを説明できる。例えば、生命・情報・環境の問題では、時としてそれぞれの幸福の対立が生じることを理解し、その課題を調整する際に正義や公正の観点を踏まえて考察できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の青年期の意義と具体的な現象について理解する。青年期はモラトリアムと呼ばれ、社会的な義務や責任が猶予されていること、現代社会においてはこのモラトリアムが延長してきていることなどを、社会的な背景や自らの経験などから説明できる。また、防衛機制について、具体的な事例を挙げて説明できる。</li> <li>・青年期の課題について、エリクソンやハヴィガースト、マズロー、ルソー、レヴィンなどの言説を理解する。また、アイデンティティの確立や自己実現に向けて、自己を取り巻く人間関係や将来の職業生活などについて考察し、その過程や結果を説明できる。</li> <li>・現代社会における自己実現とは、積極的な社会参加や個人が社会的役割を果たすことによって可能なることを理解し、自らどのように社会的役割を担うべきかを多面的に考察し、分かりやすく説明できる。</li> <li>・我が国の伝統や文化について深く理解し、伝統や文化が、自己の行動様式や考え方にどのような影響を与えているかを説明できる。</li> </ul>

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>イ 現代の民主政治と政治参加の意義</p> <p>基本的人権の保障、国民主権、平和主義と我が国の安全について理解を深めさせ、天皇の地位と役割、議会制民主主義と権力分立など日本国憲法に定める政治の在り方について国民生活とのかかわりから認識を深めさせるとともに、民主政治における個人と国家について考察させ、政治参加の重要性と民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深めさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会契約説の基本的な考え方を理解し、民主政治と国家の在り方について、個人と国家の関係の視点から考察する。</li> <li>・日本国憲法が保障する基本的人権には、自由権、社会権、平等権などがあり、さらに自由権の内容として、人身の自由、精神の自由、経済活動の自由があることを理解する。</li> <li>・国民主権が民主政治の根幹であることを知り、現在の我が国の選挙制度の仕組みについて理解する。</li> <li>・我が国における平和主義の考え方について、日本国憲法前文や第9条を踏まえて理解する。</li> <li>・日本国憲法の条文を踏まえて、天皇が日本国及び日本国民統合の象徴であることや天皇が行う国事行為について理解する。</li> <li>・日本の政治制度の基本的な仕組みについて理解するとともに、内閣が国会に対して連帯して責任を負う議院内閣制を採用していることなどについて説明できる。</li> <li>・民主社会における政治参加の重要性について理解し、新聞やニュースなどを通じて、現実の政治の動きについて関心を深める。</li> </ul>
<p>ウ 個人の尊重と法の支配</p> <p>個人の尊重を基礎として、国民の権利の保障、法の支配と法や規範の意義及び役割、司法制度の在り方について日本国憲法と関連させながら理解を深めさせるとともに、生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等などについて考察させ、他者と共に生きる倫理について自覚を深めさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法第13条の「個人の尊重」について正しく理解し、個人の生命・自由及び幸福追求の権利は最大限尊重されなければならないことを知る。</li> <li>・法や社会規範が、私たちの生活のあらゆる領域にかかわっており、私たちの権利を守っていることを理解する。</li> <li>・司法制度の基本的な仕組みについて理解し、我が国では、同じ事件について三回まで裁判を受けることができる三審制を採用していることについて</li> </ul>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホブズ、ロック、ルソーのそれぞれの考え方の違いを踏まえて社会契約説を理解し、民主政治における国家と個人について説明できる。</li> <li>・日本国憲法の各条文に則して、自由権、社会権、平等権などについて理解し、その具体的な内容を簡潔に説明できる。</li> <li>・国政選挙における衆参両院の相違点や、国政選挙と地方選挙との違いについて説明できる。</li> <li>・我が国の平和主義について、日本国憲法第9条に明文化された「戦争の放棄」、「戦力の不保持」、「交戦権の否認」に言及して説明できる。</li> <li>・日本国憲法の成立過程を踏まえて、天皇の地位と役割、国事行為の具体的内容について説明できる。</li> <li>・日本の政治制度について、議会制民主主義の考え方とともに、三権それぞれの働きについて理解し、三権が相互に抑制・均衡の関係にあることを説明できる。</li> <li>・民主社会において、国民の世論が政治に大きな影響力を有していることを理解し、マス・メディアが世論形成に果たす役割について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会契約説の内容を、絶対王政や市民革命と関連付けて理解し、その影響などを説明できる。ロックやルソーの思想が、各種の人権宣言や我が国の憲法などにも大きな影響を与えたことを説明できる。</li> <li>・基本的人権が確立する歴史的経緯を理解し、適切に説明できる。また、日本国憲法で保障されている基本的人権について、自らの生活と関連させながら説明できる。</li> <li>・我が国の選挙制度を諸外国と比較しながら理解するとともに、国民審査や国民投票など、選挙以外の政治参加の仕組みについても説明できる。</li> <li>・我が国の平和主義をめぐる憲法解釈について、最高裁の判例などに基づいて理解を深めるとともに、我が国の安全と世界の平和の維持が不可分であることを現代の世界の状況を踏まえて説明できる。</li> <li>・大日本帝国憲法と日本国憲法とを比較して、我が国における天皇の地位と役割がどのように変化したのか、国民主権との関連を踏まえて説明できる。</li> <li>・議会制民主主義に基づく日本の政治機構について、諸外国の制度との違いを明らかにして説明できる。</li> <li>・国民の世論形成に影響を与えるマス・メディアの働きについて理解し、主体的な政治参加の基礎となるメディア・リテラシーを身に付ける。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の尊重と幸福追求権について理解し、憲法第13条の規定が根拠となって、人格権などの新たな人権が保障されるようになったことについて説明できる。</li> <li>・法とは人々を公正に処遇し、相互の信頼の確保を目指すものであることを理解し、人の支配と法の支配の違いについて説明できる。</li> <li>・司法制度や違憲立法審査制が、法の支配の実現のために重要な役割を果たしていることを理解するとともに、司法権の独立が重要であることや最</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法に基づいて、基本的人権が永久不可侵の権利であることを理解し、明治憲法下における法律の留保規定と比較しながら、国家権力による人権不可侵の原則を説明できる。</li> <li>・法の支配とは、為政者による恣意的支配を排除し、合理的な議論に基づく統治を目指すものであることを理解し、法の支配と法治主義の違いを歴史的事実を踏まえて説明できる。</li> <li>・国民の権利を守り社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障が必要であることや、公正な裁判のためには司法権の独立が不可欠</li> </ul>

学習指導要領	スタンダード「基礎」	スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>エ 現代の経済社会と経済活動の在り方 現代の経済社会の変容などに触れながら、市場経済の機能と限界、政府の役割と財政・租税、金融について理解を深めさせ、経済成長や景気変動と国民福祉の向上の関連について考察させる。また、雇用、労働問題、社会保障について理解を深めさせるとともに、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる。</p>	<p>て説明できる。また、司法制度改革の一環として裁判員制度が導入されたことを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命がかけがえのないものであることについて理解し、生命尊重の精神をあらゆる生活の中に生かしていくことが重要であることを知る。</li> <li>・社会生活を営む上で、自由・権利と責任・義務とは切り離すことのできない関係にあることを理解する。</li> <li>・人間は尊厳をもつかけがえのない人格として平等であり、他の人々の願いを自分の場合と同様に尊重することが必要であることを知る。</li> <li>・現代の経済社会の変容について、産業構造や人々のライフスタイルの変化に着目して説明できる。</li> <li>・市場が需要と供給をつなぐ取引の場であり、需要と供給の均衡をもたらす「価格の自動調整機能」があることを、A・スミスの「見えざる手」という言葉を使用して説明できる。</li> <li>・財政とは、政府による経済活動であり、所得税や消費税といった租税を財源として成り立ち、社会保障費や地方交付税交付金などの歳出がまかなわれていることを理解する。</li> <li>・銀行などの金融機関が資金の融通を行うことで経済が成り立っていることや、日本銀行が発券銀行、銀行の銀行、政府の銀行の三つの働きをもつことを理解する。</li> <li>・戦後の我が国において実現された高度経済成長について理解し、経済成長が社会全体に与えた影響について説明できる。</li> <li>・日本国憲法に規定された勤労の義務や労働基本権について理解するとともに、非正規雇用の増加などに代表される現実の雇用・労働問題について知る。</li> <li>・病気やけが、加齢などによる生活不安、失業・労</li> </ul>	<p>高裁判所が「憲法の番人」と位置付けられる理由について説明できる。また、裁判員裁判の基本的な仕組みについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命尊重の精神が、現代社会において最も大切な価値であり、現代社会の様々な仕組みの中に反映されていることを理解する。</li> <li>・自らの自由や権利を主張するということは、同時に他者に対しても同様の自由や権利を認めることが前提となることや、責任・義務を果たすことによって自己の個性を生かすことができることを具体的な事例を通して理解する。</li> <li>・具体的な事例を通して、人間の尊厳についての理解を深め、人間は互いにかけてがえのない人格として平等であることを理解する。</li> <li>・現代の経済社会において、情報関連産業の発展が与える影響について理解するとともに、経済のソフト化、サービス化について説明できる。</li> <li>・市場の仕組みについて理解し、完全競争の下では、資源が効率的に配分されるが、現実の市場においては様々な要因により価格メカニズムが十分に機能しない場合があることを事例を挙げて説明できる。</li> <li>・財政の役割である、資源配分、景気調整、所得再分配の三つの機能について説明できる。今の我が国の財政政策が、国債に依存して実施されていることを理解する。</li> <li>・金融の仕組みについて、間接金融と直接金融の違いを説明できる。また、公開市場操作による金融政策の内容を理解し、市場に流れる通貨供給量との関係を説明できる。</li> <li>・戦後の我が国の景気循環とその背景について理解し、高度経済成長を生み出した諸要因を労働力や技術進歩などの視点から説明できる。</li> <li>・我が国において戦後構築されてきた終身雇用制や年功序列制などの仕組みを理解し、これらの制度が近年崩れてきた要因について説明できる。</li> <li>・日本の社会保障制度は、保険料を主な財源とする</li> </ul>	<p>であることを説明できる。また、現行の司法制度改革における議論の内容と現状について、社会的背景を踏まえて説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命への畏敬について、シュバイツァーの思想などを基に考察を深め、その精神を自らの社会生活において生かせるようにする。</li> <li>・自由や権利の行使に際しては、基本的人権の保障とともに、他者の権利や公共の利益との調和を図る必要があることについて、具体例を挙げて説明できる。</li> <li>・カントの思想などを通じて、人間が互いの人格を目的として尊重し合えるような社会を構築することが重要であることを理解する。</li> <li>・産業構造の変化や経済のグローバル化を通じて、戦後の資本主義経済がどのように変容してきたかについて、世界経済の動向を踏まえて説明できる。</li> <li>・市場における価格メカニズムについて、需要曲線と供給曲線のグラフを活用して説明できる。プライスリーダーや価格の下方硬直性などの言葉を使用して「市場の失敗」を理論的に説明できる。</li> <li>・ビルト・イン・スタビライザーやフィスカルポリシーなど、財政に関する理論を理解するとともに、日本の財政の現状について、財政健全化の必要性を踏まえて説明できる。</li> <li>・現代における金融の自由化やコール市場の発展について、先進国経済の動向を踏まえて説明できる。また、日本の金融の特徴について、他の先進国と比較しながら説明できる。</li> <li>・現在の我が国において、景気浮揚を図るために政府が行う経済政策について、具体例を示して説明できる。</li> <li>・少子高齢社会における雇用・労働問題について、経済社会の動向を踏まえ、ワーク・ライフ・バランスやワーク・シェアリングなどの考え方にも言及して説明できる。</li> <li>・日本の社会保障制度が抱える様々な課題について</li> </ul>

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>オ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割</p> <p>グローバル化が進展する国際社会における政治や経済の動向に触れながら、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義、人種・民族問題、核兵器と軍縮問題、我が国の安全保障と防衛及び国際貢献、経済における相互依存関係の深まり、地域的経済統合、南北問題など国際社会における貧困や格差について理解させ、国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割について認識させるとともに、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考察させる。</p>	<p>働災害・事故などに対して、国の責任として生活の保障する社会保障制度の意義や役割を理解する。中でも医療保険と年金保険については、それぞれ国民皆保険、国民皆年金が整備されていることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人や企業が経済活動を行う上で、法的責任と社会的責任を担っていることや、私たち個人が社会生活を営むに当たり、環境保全や社会貢献に配慮した行動をとることが重要であることを理解する。</li> <li>現代のグローバル社会が、人、商品、資本、情報などが国境を越えて自由に移動し、国際的な相互依存関係が深まる中で形成されてきたことを説明できる。</li> <li>人権、国家主権、領土に関する国際法上の規定や、国際平和に向けた各国の協調的な取組が重要であることを知る。特に、北方領土、竹島、尖閣諸島が我が国固有の領土であることを知る。</li> <li>国際社会における国際法の重要性について知るとともに、国際平和の実現や国際的な人権問題の解決に向けて、国際連合や非政府組織などの果たす役割が増大していることを理解する。</li> <li>人種や民族の違いが、宗教や言語などの問題と結びついて地域紛争を引き起こすことがあることを知る。また、グローバル化の進展とともに、文化や宗教などの違いを越えて、人類が共生に向けた努力を行うことが重要であることを理解する。</li> <li>核兵器をめぐる現状と世界の軍縮への取組について理解するとともに、国際連合をはじめとする国際機関や非政府組織などが軍縮に取り組んでいることを知る。</li> <li>現在の我が国の安全保障について理解するとともに、国際社会の平和と安全の維持において自衛隊が果たしている役割について知る。</li> <li>世界的な規模で自由な経済活動が拡大しているこ</li> </ul>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>社会保険を中心として、租税を財源とする公的扶助・社会福祉・公衆衛生がそれを補完していることを理解し、保険料方式と税方式の相違点などについて説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現代の企業には、利潤の追求とともに、環境への配慮、メセナやフィランソロピーなどの社会的責任が求められていることについて説明できる。</li> <li>グローバル化の急速な進展が、人々の生活の利便性を向上させただけでなく、経済格差の広がりなどの負の側面をもつことについて説明できる。</li> <li>国際法上の人権、国家主権に関する規定を理解するとともに、我が国固有の領土である北方領土、竹島、尖閣諸島をめぐる問題の経緯と我が国の正当な立場を理解する。</li> <li>国際社会において、主権国家の利害を調整し、国際協調の推進と国際問題の解決に向けて、国際連合などの国際的な組織の果たす役割が増大していることを具体的な事例を挙げて説明できる。</li> <li>近年の国際的な民族紛争について、紛争発生背景となる人種・民族対立について理解する。また、国際社会における文化や宗教の多様性について理解し、それぞれの文化を互いに尊重する態度を身に付けることが重要であることを知る。</li> <li>核兵器の開発・配備が国際社会に及ぼす影響や国連を中心とする軍縮への取組について理解する。また、核拡散防止条約、部分的核実験停止条約や包括的核実験禁止条約などが締結された意義やその背景について理解する。</li> <li>冷戦後の国際情勢などを踏まえ、我が国の安全保障に向けた多角的な努力や、自衛隊による国連の平和維持活動への参加など、国際貢献に向けた現実の取組について、事例を挙げて説明できる。</li> <li>情報通信技術の発達や世界的な規制緩和の動きを</li> </ul>	<p>理解する。特に、少子高齢化に伴う社会保障給付費の増加と現役世代による負担の拡大が避けられない中で、制度の持続可能性が大きな課題となっていることについて説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経済発展と環境保全を両立させるために、個人や企業が取り組むべき課題について、具体例を挙げて説明できる。</li> <li>冷戦終結後の急速なグローバル化の進展について歴史的背景を踏まえて考察し、グローバル化のもたらす諸課題について説明できる。</li> <li>人権に関する国際的な宣言や規約等の成立、国際法による国家主権の制限の意義、我が国固有の領土をめぐる問題に対する我が国の正当な立場と平和的解決の重要性などについて説明できる。</li> <li>人権、国家主権、領土などに関する現在の国際的な課題と背景について理解するとともに、その解決に向けた国際的な取組について具体例を挙げて説明できる。</li> <li>旧ユーゴスラヴィアやコソボなどの事例を基に、人種・民族問題発生背景や原因、近年の難民問題などについて考察し、紛争を回避するために必要な考え方や国際機関などの果たすべき役割について説明できる。</li> <li>冷戦末期に戦略兵器削減条約や中距離核戦略全廃条約が締結されたことについて、その背景を理解する。また、化学兵器禁止条約やクラスター爆弾禁止条約の締結など、核兵器以外の分野における国際的な軍縮問題について説明できる。</li> <li>冷戦期から冷戦後、現在に至るまでの国際社会の動向を踏まえて、地球規模の問題解決のためには様々なレベルでの国際協力が求められていることを理解し、食料の安定確保なども含む我が国の総合的な安全保障の重要性について、国際協調の立場から説明できる。</li> <li>経済の国際化が急速に進展している背景について</li> </ul>

学習指導要領		スタンダード「基礎」
(3) 共に生きる社会を目指して	持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を探究する活動を通して、現代社会に対する理解を深めさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察を深めさせる。	<p>とや、国際経済問題の解決には地球規模での連携が必要であることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化の進展とともに、国際的な経済の相互依存関係が深まっていることを理解し、欧州連合などの事例を踏まえて地域的経済統合の動きについて知る。</li> <li>・南北問題や南南問題などの国際的な経済問題の解決のためには、国際協調が必要であることを認識し、国際機関や非政府組織などの果たす役割の重要性について理解する。</li> </ul> <p>持続可能な社会の形成に参画することの重要性について理解し、「個人と社会の関係」、「社会と社会の関係」、「現役世代と将来世代の関係」のいずれかに注目して現代社会の諸課題について考察できる。</p>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>理解するとともに、経済の国際化について、身近な商品の流通などの事例を踏まえて説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際的な経済の相互依存関係の深まりについて理解し、世界各地に広がる地域的な経済統合の動きについて、具体的事例を踏まえて説明できる。</li> <li>・戦後の国際経済の動向を理解するとともに、経済のグローバル化がもたらす地域間・国家間経済格差の問題や、南北問題などの諸課題の解決に向けて、国際機関や非政府組織に求められる役割について説明できる。</li> </ul> <p>持続可能な社会の形成に参画する意義を認識し、現代社会の諸課題を主体的に探究できる。「個人と社会の関係」、「社会と社会の関係」、「現役世代と将来世代の関係」などを踏まえて、現代社会の諸課題について考察し、考察した結果をグループで議論できる。</p>	<p>理解し、国際経済問題の解決には地球規模での連携が必要であることについて、具体例を挙げて説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際的な自由貿易体制を維持・発展させることが世界経済の重要課題であることについて、その背景や影響とともに、地域経済統合や自由貿易協定などの用語を使用して説明できる。</li> <li>・国際経済の諸課題について、歴史的経緯を踏まえて考察し、南北問題などを解決するために国際機関や非政府組織が果たしてきた役割を整理した上で、今後の我が国に求められる経済協力の在り方について説明できる。</li> </ul> <p>持続可能な社会の形成に主体的に参画する意欲をもち、現代社会の諸課題を多面的・多角的に考察し、課題を探究できる。例えば、「現役世代と将来世代の関係」に着目し、現役世代が物質的な豊かさや社会保障の充実などを求めることが将来世代の負担につながりかねないことを自分の言葉で表現できる。</p>

教科：公民 科目：現代社会